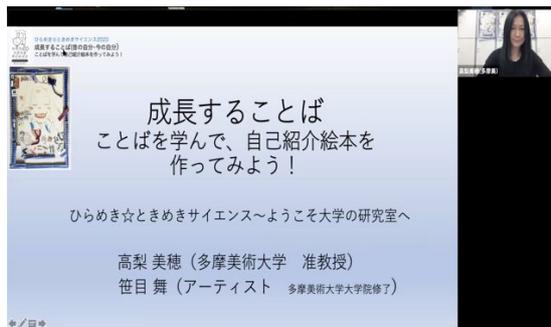


令和2(2020)年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)
 実績報告書(プログラム実施報告書)
 (研究成果公開促進費)「研究成果公开发表(B)
 (ひらめき ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI)」

課題番号：20HT0086

プログラム名：成長することば(昔の自分・今の自分) ことばを学んで自己紹介絵本を作ってみよう！



所属 研究 機関	名称	多摩美術大学
	機関の長 職・氏名	学長・多摩美術大学
実施 代表者	部局	美術学部
	職	准教授
	氏名	高梨 美穂

開催日	令和3年3月27日(土)
実施場所	オンライン(Zoom)
受講対象者	小学5・6年生、中学生
参加者数	小学5・6年生9人、中学生10人
交付申請書に記載した募集人数	20名

プログラムの目的

ことばの発達を確認し、そのことばを科学的に分析することで受講生に「ことばとは何か」、「ことばの研究から何が見えるのか」を考えてもらう。ことばを客観的に捉え、意識的に使うことを通じて新たな発見を導くとともに言語学への基礎的導入を促すことを目的とする。また実習においては、多摩美術大学の特色である美術を取り入れ、受講生自身のことばの振り返りを行った上で生み出したことばを絵本という形として美的に表現することを通じて、ことばと美術の接点について考えてもらう。

プログラムの実施の概要

受講生にわかりやすく科研費の研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点
 プログラムは、事前学習、講義、実習、発表・ディスカッションの4段階に分け、科研費で行っている研究について取り上げ、その後、知識として言語学、言語発達、美術的知識学ぶとともに、それを実践する体験型プログラムとした。オンライン上(ZOOM)でのコミュニケーションを十分に図るために、チャット欄での意見交換を行った。
 具体的には次の通りである。

【事前学習】

当日の効果を高めるため、受講生に言葉に対して自ら考える機会を事前に与え、言語発達に関する気付きを高めるための課題(昔の自分と今の自分について客観的言語化してみる)を行ってもらった。

【講義】

講義 「ことばの研究(入門)」では、ことばの仕組みに関する基礎的な講義を行った。講義 「ことばを科学してみよう！」では、言語学から言語発達研究に関する研究を具体的に取り上げ、講義した。その後、講義を通しての受講生からのコメントや質問を受け付け、適宜回答した。

【実習】

実習では、ことば編と美術編に分け、内容に応じて、合同実習とグループ実習を行った。グループ実習では、ZOOM内をグループに分け(ブレイクアウトルーム)を行い、各グループに実施協力者を配置し、プログラムで学んだ方法を用いてオリジナル絵本を作成した。

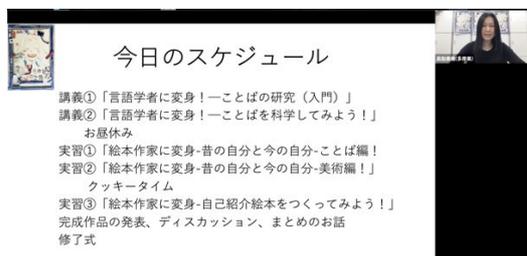
実習 「絵本作家に変身-昔の自分と今の自分-ことば編！」では、言語学的、言語発達の視点からどのように自分やことばが成長したのかを考え、絵本に用いることばを考えてもらった。実習 「絵本作家に変身-昔の自分と今の自分-美術編！」では、絵本での美術的な技術を学び、その技術を使う練習を合同で行った。

実習 「絵本作家に変身-自己紹介絵本をつくってみよう！」では、イラストやコラージュ、スタンプングなどを取り入れて、オリジナル絵本の作成を行った。終了後は、完成作品の発表を行い、参加者全員でプログラム体験の共有・言語化を行った。

当日のスケジュール

- 9:45-10:00 受付(集合場所:指定されたオンラインルーム)
- 10:00-10:15 開講式(オリエンテーション、科研費の説明)
- 10:15-10:40 講義 「言語学者に変身-ことばの研究(入門)(講師:高梨美穂)」(終了後 10分休憩)
- 10:50-11:10 講義 「言語学者に変身-ことばを科学してみよう！」(講師:高梨美穂)」
- 11:10-11:35 質疑応答、午後の説明、受講生同士の自己紹介
- 11:35-12:35 昼食
- 12:35-13:10 実習 「絵本作家に変身-昔の自分と今の自分-ことば編！」(終了後 10分休憩)
- 13:20-14:20 実習 「絵本作家に変身-昔の自分と今の自分-美術編！」
- 14:20-14:40 クッキータイム
- 14:40-16:00 実習 「絵本作家に変身-自己紹介絵本をつくってみよう！」(適宜休憩)
- 16:00-16:40 完成作品の発表会、ディスカッション、まとめのお話し(講師:高梨美穂)
- 16:40-17:00 修了式(アンケートの記入、未来博士号の授与)
- 17:00 終了・解散

実施の様子



講義



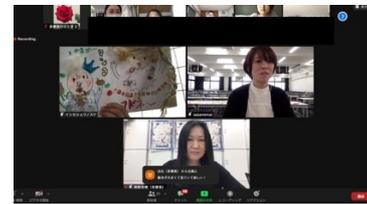
講義(外部講師による説明)



実習



実習(状況確認)



講評・ディスカッション



まとめのお話し



事後学習(SNSで受講生の作品紹介)

事務局との協力体制

- ・研究支援課が振興会への連絡調整を行い、経費の管理や提出書類の確認・修正等を行った。
- ・広報活動は、実施者、研究支援課、総合企画部が協力して行った。
- ・プログラム当日は、運営に研究支援課員も加わり、プログラムを実施した。

広報活動

- ・大学ホームページへの掲載や、SNSを活用し、本プログラムの情報発信を行った。
- ・研究支援課と実施者が協力して募集案内チラシ、ポスターを作成し、プログラムのPRを行った。
- ・進学相談会等の来場者が多い大学イベント開催時を利用し、受講生募集の広報活動を行った。
- ・小中校生が理解し興味を持つような情報をSNSやHPなどで発信し参加者の確保に努めた。

安全配慮

- ・新型コロナウイルス感染症拡大感染防止の為、オンラインで実施した。
- ・受講生・実施者は短期の傷害保険に加入した。
- ・当日は受講生に緊急連絡先を記入した緊急連絡票の提示を求め、保護者との連携体制を整えた。
- ・オンラインでの開催の為、受講キットに予め注意事項等を記載し、注意を呼び掛けた。

今後の発展性、課題

- ・受講生の研究についての興味を深めるような取り組みとして、疑問に思うことを聞くなどの時間を取り入れた。
- ・小学5,6年生と中学生を対象にしたため、講義での理解度を解消するために年齢別でのグループワークを取り入れた。ただし、実技面でのレベル差も見られたため、実技面での経験を考慮するなどの対応も必要である。